

慶應義塾大学病院 KOMPAS の管理と運営（事例報告）

赤堀美和子

慶應義塾大学信濃町メディアセンター

慶應義塾大学信濃町メディアセンター（以下、メディアセンター）は、慶應義塾大学病院（以下、当院）と連携して、2009年1月に院内の一角に「健康情報ひろば（以下、ひろば）」を開設し、ボランティアスタッフを中心に患者向け医療情報サービスを実施している。開設と同時に「KOMPAS (Keio hOspital inforMation & Patient Assistance Service)」をひろばに設置した専用パソコン7台での公開を開始した。KOMPASとは、当院の医師および医療専門家が病気や検査などの医療に関する様々なトピックスを一般の方向けに分かりやすく執筆した、当院オリジナルのWeb上の医療・健康情報提供システムである。患者自身が病名などから記事を検索して情報を入手することを意図して、記事の構成、画面の見やすさ、操作性などに配慮しながら設計した。さらに、2010年3月より、インターネットを介して一般公開を開始した。これによって場所の制約がなくなり、自由に利用できるようになったため、院外からも掲載記事についての問い合わせを受けるようになった。さらに最近ではスマートフォン、タブレットPCからも利用可能となり、急増したアクセス数は月に約40万件に達している。

メディアセンターは、健康情報ひろば・KOMPAS運営委員会およびKOMPAS編集委員会の事務局として、KOMPASの運営を担っている。サーバの管理と記事の追加・更新はWebコンテンツ制作会社に委託し、記事内のイラストは医療専門のイラストレータに制作を依頼している。コンテンツの大部分は「病気を知る」で、当院の医師および医療専門家が執筆した記事、約650項目（2018年10月現在）を公開している。Web版は、病気のほか「検査」や「くすり」などの6つのカテゴリーに分かれている。さらに、コラム記事として「慶應発サイエンス」「あたらしい医療」の2本を毎月新規掲載している。「慶應発サイエンス」は、当学医学部の研究者による、話題性の高い最先端医学研究について、世界の一流誌（NatureやScienceなど）に掲載された論文をもとに、一般の方向けに分かりやすく解説している。「あたらしい医療」は、当院の各診療科が現在取り組んでいる臨床研究や、診療・治療の最新動向を紹介している。それぞれによって当学の最先端の研究動向や当院の診療業務の最新情報を紹介する役割を果たしている。KOMPAS記事の編集のため、毎月1回、編集委員会を開催している。編集委員会では、主にコラム記事の執筆者の選考と原稿の校正作業を行い、一般の方にとって難解な表現をなじみやすい表現に言いかえるなどの点に留意している。

KOMPAS掲載の記事は、時の経過につれて内容が古くなってしまうため、常に最新の情報を提供するための努力が必須である。そこで、毎年、運営委員会を開催し、記事の最終更新日をもとにアンケート形式で各診療科の運営委員に記事の内容確認と修正原稿の作成を依頼して、改訂作業を行っている。現在は、最終更新日が2014年度以前の記事を対象に改訂作業を進めている。 KOMPAS <http://kompas.hosp.keio.ac.jp/>

以上